

# 水産



農林水産部 水産漁港課  
調整・振興班  
技師 松井 崇人

## 経歴 採用3年目

- H28年 入庁  
農林水産部 水産漁港課  
調整・振興班
- H25年 民間企業勤務

## ある日のスケジュール

- 8:15 出勤(自家用車)
- 8:30 朝礼、メールチェック
- 9:00 メール返信対応
- 9:30 打合せ
- 10:30 資料作成
- 12:00 昼食(手作り弁当)
- 13:00 公用車出張
- 14:00 補助金事業実施業者訪問  
進行状況の確認、アドバイス等
- 16:00 帰庁
- 17:00 書類整理、  
翌日のスケジュール確認
- 17:30 退庁
- 18:30 帰宅
- 19:00 子供とお風呂
- 19:30 夕食
- 21:00 子供を寝かしつける  
→そのまま就寝

## わたしの職場はこんなところですよ

水産漁港課は、秋田の水産業の振興と水産資源の持続的な利用を図ることを目的とした部署です。

漁業者の支援、担い手の育成、水産物の消費拡大に向けた取組を行う「調整・振興班」と、漁港施設の機能の維持・強化を図るための工事等を行う「漁港漁村整備班」、漁業調整や漁業取締を行う「漁業管理班」の3班で構成されています。気さくな職員ばかりで、明るくアットホームな雰囲気の職場です。

## わたしは今、こんな仕事をしています

「調整・振興班」に所属し、水産物の鮮度管理、ブランド化、商品開発を行う方を支援するための補助金事業や漁場整備による効果を調査するための事業を実施しています。

補助金事業では、県内の事業者を訪問し、進行状況をヒアリングします。改善が必要な場合は、参考となる事例を調べてアドバイスしたりしています。

漁場整備の効果調査では、水産庁に対する予算要求説明資料を作成し、予算を確保します。その後、調査項目を指定して調査業務を業者に委託し、効果の確認を行っています。

## 秋田県のここが好き！

運転が好きなので車でドライブに出かけることが多いのですが、県内には見所がたくさんあります。

海岸線では、夏は夕日、冬は荒波の情景が見られ、内陸部に行けば田園風景があり、秋田杉が立ち並ぶ森があり、四季折々で変化が見られます。

また、県北と県南では道の駅などで見られる食品や味付けが異なり、同じ県内でも文化の違いを感じられ、新たな発見があります。

## 水産職のやりがいはここ！

漁業者や水産物の流通や販売を行う業者と関わる機会が多く、県内の様々な場所で水産物や水産加工品を見る機会があります。

また、水揚げされる魚介類は、形も良く美味しそうな魚や、一般的には出回らないけど食べると美味しい魚介類など、実にバラエティに富んでいます。このような多品種の水産物が獲れる環境を整え、漁業者や市町村と連携して県内外に魅力を発信し、水産業を発展させていくことに励んでいます。

## 秋田県庁は、どのような職場ですか？

前職の民間企業勤務時とは、考え方が大きく違います。民間企業では、社会の流れに合わせて素早く対応する必要がありました。入庁してからは、数年後からもっと先のビジョンを描いて種を蒔いて育てていくことが必要だと感じています。

秋田県をより良くするために何が必要か考え、試行錯誤を繰り返していく仕事だと思っています。

## 秋田県職員として働く魅力をおしえてください。

民間企業では、自社や自分の利益を考えて仕事をしますが、現在は、秋田県職員として、漁業者や水産関係業者が利益を得られるように考えて業務に取り組んでいます。自分がかんばった分、多くの方々の役に立つことが魅力だと思っています。

## 秋田県職員採用試験の受験を考えている方へ、ひと言！

秋田のことを考え、多くの人のために働きたいと思う人は、ぜひ一緒に働きましょう。



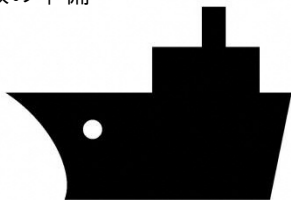
農林水産部 水産振興センター  
増殖部 技師 高橋 佳奈

## 経歴 採用5年目

- H30年 農林水産部水産振興センター増殖部  
H29年 農林水産部水産漁港課漁業管理班  
H26年 入庁  
農林水産部水産漁港課調整・振興班

## ある日のスケジュール

- 7:45 出勤(自家用車)  
8:00 ワムシの計数  
※動物プランクトン的一种  
8:30 朝ミーティング、メールチェック  
9:00 ワムシの給餌量・注水量調節  
10:00 ワカメの種系収容作業  
12:00 昼食  
13:00 アユの採卵作業  
16:30 アユの受精卵の収容作業  
17:00 ワムシ水槽の点検  
17:30 退庁  
18:30 帰宅  
19:00 夕飯の準備



## わたしの職場はこんなところです

水産振興センターは、水産資源の持続的利用や漁業者の所得向上等を目的として、重要魚介類の増養殖技術の開発や資源管理等の試験研究を行っている機関です。

試験研究の企画・広報を行う「総務企画班」、県の漁業調査指導船「千秋丸」でハタハタやヒラメ等の資源調査を行う「資源部」、トラフグやアユ等の種苗生産や放流技術の開発を行う「増殖部」の1班2部体制で、約30名の職員が働いています。目の前には日本の渚百選に選ばれた“鶴ノ崎海岸”が広がり、毎日、男鹿の美しい景色を見ながら仕事ができます。

## わたしは今、こんな仕事をしています

卵からふ化して間もないトラフグやアユ等の仔稚魚に餌として与えるワムシの培養や、ワカメの養殖技術開発等に関する業務を担当しており、特に、ワムシでは、全国でもまだ取組の少ない閉鎖循環培養という新技術の運用を任されています。日々、水質やワムシの増え具合をチェックし、培養水や餌の量のバランスを調節しながら、新しい技術を使いこなせるようチャレンジしているところです。

その他、ワカメが収穫される時期には生産用の種を採る作業、アユの産卵時期には採卵作業等を行っています。ワムシ同様、生き物のリズムに合わせなければならない仕事なので、毎日の観察や管理が大変ですが、常に変化があるのでとても面白いです。

## 秋田県のここが好き！

自然豊かなところが好きです。私は、就職前の数年間、県外に住んでいたのですが、秋田に居るときは当たり前だった緑の鮮やかさや四季折々の風景が、どれだけ自分を癒やしてくれていたのか、秋田を離れて初めて気がつきました。

冬は寒さが厳しいですが、思う存分ウィンタースポーツや温泉を楽しむことができるので、子供の頃より今の方が、冬を満喫しているかもしれません。

## 水産職のやりがいはこちら！

本センターで生産している全ての仔稚魚の初期餌料となるワムシを扱うことにプレッシャーはありますが、計画どおりにワムシを培養できた時は、トラフグやアユ等の健全な種苗の生産と放流、ひいては秋田の漁業生産に貢献していると感じ、嬉しく思います。

また、水産にかかる試験研究は、成果が出るまで大変時間がかかり、かつ、自然環境の変化に左右されるため、難しいことも多いです。このような中、漁業関係者や水産関係者と意見交換を行い、課題・問題を共有しながら、対応策を検討・実践していくことに、とてもやりがいを感じます。

## どんな人と一緒に働きたいですか？

物事を柔軟に考えられる人と一緒に働きたいです。職場では、同僚はもちろん漁業関係者の方々とも会話をする機会が多くあります。様々な状況の中で、相手方の意図をしっかりとくみ取り、柔軟に対応していく力が必要だと日々痛感しています。

## 採用試験の準備はどのようにしましたか？

教養試験は、公務員試験対策の問題集1〜2冊を繰り返し解いて勉強し、専門試験は、主に国家公務員試験の過去問を解いて対策しました。特に専門試験については、普段の大学の授業が非常に役立つので、採用試験の科目を意識して講義を選択することが大切だと思います。面接については、家族や友人に面接官役になってもらい、質問に対する答えを自分の言葉で論理的に述べられるよう、何度も練習しました。

## 秋田県職員採用試験の受験を考えている方へ、ひと言！

県職員の仕事は、皆さんの想像以上に幅広く、多岐にわたっています。様々なことにチャレンジできる職場でもあるので、ぜひ、私たちと一緒に秋田のために働きましょう！水産の現場は、男性のイメージが強いかもしれませんが、女性職員も活躍していますので、女性も安心して楽しく働けますよ！